

1 自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	2271100675		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美1F		
所在地	沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成22年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271100675&SCD=320
----------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒421-0421 静岡県牧之原市細江508-23
訪問調査日	平成22年3月5日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

・BD企画では、1対1の対応で利用者様の希望を叶えてあげるよう努力している。 ・季節感をあじわって頂くため外出レクを行っている。 ・温泉1泊旅行を計画し、ご家族と共に外泊の機会を提供しています。 ・レク活動では、体操、ストレッチなどを取り入れ、健康維持に努力しています。
--

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

沼津市の静かな住宅地の中にあり、神社や森林など自然環境にも恵まれている。車の往来も少ないため気軽に散歩や買い物に出掛けられる。社員寮として使われていた建物を上手に利用して自宅のような家庭的な雰囲気を出している。法人の支援体制のもと管理者と職員は、利用者の思いを大切に、一日一日を楽しく安全に過ごせるようにという共通認識を持って、日頃のケアを行っている。働くことに誇りと喜びを持って日々ケアを行っており、それが利用者の明るい笑顔につながりホーム内は明るく和気あいあいとした温かい雰囲気に包まれている。壁面には行事の写真が所狭しと飾られ、家族や利用者を楽しませている。利用者の誕生日にはBD企画を実施し、利用者や家族から好評を得ている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りにスタッフ全員で、理念・今月の目標を読み上げ、実施していけるよう努力しています。	職員は毎朝理念を読み上げ、理念に沿って利用者が安全で楽しく過ごせるような個別対応を心がけている。利用者と共に生き、働くことに誇りと喜びを持っている。月ごとに目標を立て、達成度を評価するといった努力もしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、行事への参加はもちろん、地域清掃にも、出来る限り利用者と一緒に参加している。学校行事等地域行事にも、出かける機会を作っている。地域保育園訪問、中学生職場体験の受け入れも行っている。	近所の神社の草取りに地域の方と混じって参加したり、地区文化センターに展示された利用者の作品を見に行くなどしている。隣家から野菜を頂いたり、散歩中近隣の方が声を掛けて下さるなど、日常的に地域との交流がなされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの際、相談を受け説明している。施設見学の方にも可能な限り相談を受け助言を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現在の状況説明や行事、日常の暮らしなど、写真を見ながらGHの生活を知ってもらっている。ご家族、地域の方の意見・要望等を可能な限り改善に努めている。	家族、利用者、介護相談員、民生委員等の参加により、二ヶ月に一度開催している。現状報告や意見交換、外部評価の報告などを行っている。市の職員には案内状を出していない。	市の介護保険担当者にも運営推進委員会議の案内状を出し、参加を促すことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活相談員の方が、月1回来所されたり、地域GH会議や、市で行われる研修会などへ参加をしている。	管理者が市に出向き、利用者の現状報告、介護認定更新時の相談などを行っている。市の介護保険担当者とも顔なじみになり、声を掛け合うような関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0のケアを目指している。玄関は、建物の構造上自動ロックが掛かってしまうが、外出の希望時には、開ける対応をしている。又庭への出入りは自由に行っている。	玄関は構造上自動ロックがかかってしまうが、不審者の対策にもなっている。庭へは自由に出ることができ、一、二階への行き来もエレベーターで出来るようになってきている。階段の上り口と降り口に安全上の柵があり、圧迫感が感じられる。	階段の柵については、安全上止むを得ないが、柵と感じられない工夫を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の不注意な言動が虐待となることがないように、介護支援の時などの言葉かけ、介護方法などについて、ミーティングなどで徹底している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方もいます。外部研修に参加し、学んできたスタッフの報告を、ミーティングなどで行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、面接、訪問などを行い、入居時は、重要事項説明書や、契約書に添って説明し質問などに答えている。解約時にも、説明を行い解約の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1度、介護相談員が来所し、利用者の話を聞く機会を作っている。法人本部の管理する意見箱の設置をしている。利用者との会話により、訴えを聞いたりしている。	利用者の家族が訪問する際は、必ず話を聞く時間を作り、要望が実現できるよう対応している。苦情に関しては法人本部に相談するシステムになっているが、現在のところ苦情は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに、意見交換を行ったり、ミーティング記録など、個々の意見が記入出来るよう工夫されている。個人面談もおこなっている。	年に二回本部から、職員の個別面談の機会が設けられている。ミーティングでは利用者の対応について話し合い、共通の対応ができるようにしている。そのような場だけでなく、いつも気兼ねなく職員と管理者が相談できる関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況など、毎月代表者に報告し、把握出来る状況にある。年2回会社より個人評価表をもとに、評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー養成講座の受講者への支援。レベルに合わせて、社内外研修への参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH会議への参加で、他施設のスタッフとの交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談時、可能な限り要望を探るよう努めている。(言語的コミュニケーションの他非言語コミュニケーションにて)			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネ等、家族との話し合いの機会を持ち、必要な関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネ等は、本人と家族等のご理解を頂ける説明を心がけている。初期対応の見極めをした上で専門語をさけ、分かり易い説明に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも「そっと寄り添い共に生きる」とあるように、出来る力を引き出し、自立支援を心がけている。調理・清掃等、その人なりに出来る形で行って頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を頂き、家族との団欒、墓参り外出外泊及び、行きつけの美容院への付き添いをお願いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得たり、施設行事での外出時、BD企画等馴染みの場所や、馴染みの人達とのドライブ、会食等を計画し実施している。	誕生日(BD)企画を個別に年一回開催し、利用者個別の希望に沿ったイベントを計画し実践している。ご主人とドライブに行き、カフェに寄るなどの例があった。月に一度くらいの頻度で、近くの飲食店に職員と一緒に会食に出かけることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を考慮しながら、食堂での座席やリビングで過ごされる席への誘導をしたり、レク活動、家事活動で関わり等が良好になる支援を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望がある場合は、生活状況等の情報提供はもちろん、相談にも応じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からも思いを汲み取る他、ケアプラン作成、説明時等は、ご本人と向き合い希望、意向を把握する様努めている。利用者本意の考えに立つ。	日常の何気ない会話や動作の中から思いを汲み取り、ケアプランに反映させている。介護計画作成時には、利用者と話し合い納得できるものになるよう心がけている。利用者の意向がかなうよう、職員が市の広報の情報を集めるなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族等に依頼、センター方式シートを使用、把握に努める他、家族面会等の会話より生活歴を探るよう努めている。スタッフの得た情報は、介護記録等から報告される。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に1日の記録がされている他、特別な事項は、朝夕の申し送りにて全スタッフに周知される。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望を何うと共に、必要時にはケアカンファレンスを行い、スタッフの意見を求め検討する。毎月のモニタリング・ケアプラン作成時には、担当者より意見収集を行っている。	スタッフは利用者ごとに担当制になっており、きめの細かい情報収集が行えるため、より現状に即したケアプランが立てられる。担当者自らが介護録に青字でモニタリングし、定期的な見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入がされている。特別な記録は、申し送りやミーティングで報告・検討され、計画担当者により計画見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付き添い、買い物外出等状況により、必要・要望のあるものは、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施。行事の時のボランティアの参加。近隣の商店への買い物食事等を活用し交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認をしている。ホームの医療連携の説明を本人・家族に行っている。体調不良時には、看護師・家族へ連絡し往診などの対応をしている。また歯科往診も受けている。	入居時に以前からのかかりつけ医か提携医かを選択できる。提携医の場合は、月二回の往診と24時間体制の緊急時対応が可能である。同一法人内の看護師が週三回訪問し、健康管理に気を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回の看護師により、健康管理を行っている。24H体制で連絡対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に訪問し、医師・看護師・ソーシャルワーカーなどから情報収集し、状況の把握、メンタル面など考慮し退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期の看取りについて、ホームで出来る事、出来ない事を含めて家族に説明している。意向を書面に記入して頂き、状況変化などの時は、再記入して頂くようにしている。	医療との兼ね合いを考慮し、みられる範囲で対応している。利用者の状況によって、可能であれば終末期対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの対応の講習会へ参加している。利用者急変時などの対応は、申し送り・ミーティング等で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施。運営推進会議等で、協力をお願いをしている。	グループホーム内の防災訓練のみならず、地域の防災訓練にも利用者と職員が積極的に参加し、顔なじみの関係になっている。同一法人との協力体制ができていて、応援を頼むこともできる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室時はノックし、声掛けを行う。記録時に必要な時は、イニシャルで記載。入浴・排泄時の身体保護、声掛けに努めている。	個々の希望により名前で呼ぶこともあるが、基本的には苗字で呼ぶことで利用者の人格の尊重をはかっている。入浴は必ず一人ずつ順番に行いプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しかけた時は、その場で手を止め傾聴している。BD企画は本人の希望（行きたい場所・食事等）により外出の支援をしている。レク活動や家事活動も、無理強いせず参加を促している。納涼祭では、希望により浴衣を着用された。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは大まかにはあるものの、自由な参加としている。静養を希望される時は（機能低下しない範囲で）して頂いている。テレビ、音楽など希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の準備など一緒に行い、声掛けし確認して頂く。髪の手入れは美容院が必要と思われる時は、ご本人、ご家族の了解を得て、利用して頂く。外出時の身支度や更衣時には本人の意見を尊重しながらTPOにあった助言に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付けなど各自の出来る力によって、（野菜切・米とぎ・食器洗い・拭き・配膳）参加して頂いている。	週に二回利用者と職員が車で食材を買いに行き、相談して献立を決めている。個々の持つ能力に応じて一緒に食事を作り、片付けも行う。利用者と職員が和気あいあいとした雰囲気の中で食事をとることで、コミュニケーションが深まっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の必要な食事水分を、摂取して頂けるように努め、必要な時は、食事介助等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、毎食後、夕と計5回歯科医の指導に基づく口腔ケア、仕上げ磨き及び夜間義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けています。排泄パターンを探り、時間のあく時は声かけ誘導します。安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でも、リハパン使用等に回復して頂いています。	トイレに排泄板を作り、個人の排泄パターンを調べ個々にトイレ誘導をしている。誘導の際は「散歩に行きましょうか」「ちょっといいですか」など、周囲の目を配慮した言葉かけがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫（繊維質の多い食物。水分強化、牛乳の摂取）等を個別に行っています。家事活動・レク活動で、身体の動きを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールはあるが、希望のある方には可能な限り、提供できるように努めている。	入浴表を作り、週に三回は入浴できるようにしている。毎日の入浴や、夜間のシャワー浴など個々の希望にも可能な限り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めず、本人のリズムで過ごして頂いています。夜間は、温かい飲み物や、足浴を提供しリラックスして、入眠して頂ける様に努めます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、処方箋を掲示し、スタッフは薬や副作用の知識向上に努めています。薬の変更時等は常に申し送りしで伝えられ、申し送り帳に記されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時又はご家族面会の際、本人からの会話より出来る力を探り出し、引き出すように努めています。スタッフが得た情報は介護記録に記し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年1度のBD企画は、本人の希望を伺い外出を含め、実現している。家族にも依頼し旅行も実施している。当日の希望（近所への買い物・散歩）は出来る限り実施出来る様努めている。	近所の商店へはがきやパン、和菓子などを職員と一緒に買いにいくなど、できるだけ戸外に出る機会を多く作っている。気分転換を兼ねて散歩も日常的に行っている。普段行かれないところは、BD企画などで実現をはかっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る力のある方については、実践出来る様支援している。（お金を所持し、スタッフ付き添いで買い物している）		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る力のある方については、実践している。家族との通話。手紙のやり取り（投函への同行支援）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努めている。四季や年間行事を感じる、飾り付けや掲示を行ったり、花を生けている。施設周辺にて花作りをしている。	南側に庭があり、明るく日当たりが良く、各部屋から四季折々の木々や草花を楽しむことができる。ウッドデッキが造られているため、夏は花火を見たり、ラジオ体操を行っている。庭では野菜作りを行うこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはなじみのソファ等自由に座り集える場所の提供がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家より持ち込まれた家具、寝具、ぬいぐるみ等あり（入居時にも持ち込んで頂く様お願いしている。）	居室には、畳部屋とフローリングの部屋とがある。どちらにも押入れがあり、自宅にいるようなぬくもりが感じられる。時計や写真、カレンダーや座布団など利用者の馴染みの物を置き、居心地の良い空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り努めている。希望により表札を掲げている。理解が難しい方には、馴染みとなるリース等を掲げている。		